

# 公益財団法人日本バレーボール協会 2017 年度第 11 回理事会(定例) 概要

1 日 時：2018 年 3 月 13 日(火) 13：00～15：50

2 会 場：日本バレーボール協会 会議室

3 出席者：

理事総数 20 名

出席理事 16 名

会長（代表理事） 嶋岡健治

副会長（理事） 志水雅一、岡野貞彦

専務理事（代表理事） 八田茂

業務執行理事 林孝彦、鳥羽賢二、桐原勇人、鍛冶良則

理事 荒木田裕子、加治健男、川合俊一、小柴滋、須藤実和、  
原卓弘、丸山由美、田中祥子（第 2 号議案より出席）

監事総数 3 名

出席監事 3 名 工藤陽子、西川秀人、廣紀江

本部長総数 3 名

出席本部長 2 名 村上成司、灰西克博

4 議 長：嶋岡健治

5 決議事項

- (1) 次期評議員候補者推薦決議について
- (2) 第 9 期（2018 年度）事業計画について
- (3) 第 9 期（2018 年度）予算について
- (4) 組織変更及び役員担務の変更等について
- (5) 事務局規程の改定について
- (6) 委員会委員等の選任について
- (7) 功労者 I 表彰の決定について
- (8) 平成 28 年度事業を対象としたスポーツ振興事業助成金実態調査結果に基づく改善方策の提出について

6 議事の経過の要領及びその結果

会長が議長席に着き開会を宣し、本理事会は、定款第 41 条に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。続いて議事録記名押印理事に鳥羽理事を選出し、議案の審議に入った。

(1) 次期評議員候補者推薦決議について

次期評議員候補者推薦決議について、下記の通り説明があった。

2018年6月13日の定時評議員会の終結の時をもって、現評議員15名の任期が満了となる。先般、2018年2月15日の臨時評議員会において評議員定数を15名以上20名以内から20名以上25名以内とする定款の改定(2018年6月13日施行)が承認された。この定款改定により、理事会及び評議員会から推薦された評議員候補者については、最終的には4月に開催される評議員選定委員会において審議され、20名以上25名以下の評議員が選定(決定)されることになる。

本日は理事及び加盟団体の皆様から推薦された評議員候補者の中から、理事会として評議員選定委員会に推薦する候補者の承認決議を行う。

候補者人数は理事からの推薦が17名、加盟団体(全国ブロック・全国連盟)からの推薦が14名であり、推薦者(各理事)から推薦書に基づく候補者の紹介が行われた。続いて、決議方法について議長より提案があり、満場一致にて記名式投票を用いることが決定した。

■評議員選定委員会に提出する理事会としての推薦候補者について賛否を諮ったところ、31名の候補者全員が承認可決された。

## (2) 第9期(2018年度)事業計画について

第9期(2018年度)事業計画について下記の通り説明があり、賛否を諮り承認可決された。

第9期・2018年度事業計画案の基本方針については前回の理事会で承認いただいた2018年度JVA運営方針を軸としているが、2018年度の厳しい経営状況を招いた大きな要因は、中・長期にわたる適切な財務計画の不在であったと認識している。昨年度制定された2050年構想や中期計画については内容を精査する必要がある、改訂も視野に入れて検討する。以下、2018年度を推進するための「4つのキーワードの展開」について説明する。

### 1. 攻める(収入増加)

◎2018年度、約6億円の赤字の削減に向け、収入増加をJVA挙げて取り組む

・M&Mの組織力、機能強化

→人材補強(部長とスタッフ1名増員、広報2名のシフトによる販売促進強化)

→チケットングを国際、国内業務部からシフトし専任化を図る

→組織名称をマーケティング戦略事業本部に変更し体制の充実を図る

### ◆協賛金1億円

→全日本男女のメディア露出強化→新規協賛金0.7億円獲得

→ビーチバレーワールドツアーの新規協賛金0.3億円獲得

◆入場料収入 0.5 億円

2018 バレーボールネーションズリーグ、2018 女子世界選手権大会を放映するテレビ局や、開催地加盟団体との連携による拡販（経済団体や行政とも連携し企業向け販売や学生や家族の集客施策、海外チームによるバレーボール教室開催などで日本戦以外の拡販も目指す）

◆MRS 登録促進

専任部長を配置し、地域、カテゴリー別の登録目標を設定し、各種施策の成果の進捗管理を実施

2. 強化

		国際大会目標		達成のポイント	
インドア	シニア	男子	ネーションズリーグ	10 位以内	計画的選手登用により、週毎に 1 勝以上を目標とする。
			アジア競技大会	2 位以内	全日本準代表チームで参戦。 イラン、中国、韓国に勝利。
			世界選手権大会	8 位以内	上位ランク国（11 位以上）からの勝利。
	女子	ネーションズリーグ	ファイナル出場	計画的な選手選考および新戦力を登用し、成果（5 位以内）を修める。	
		アジア競技大会	優勝	中国、タイ、韓国に勝利し優勝を目指す。	
		世界選手権大会	3 位以内	国内大会開催でのアドバンテージの中、上位国に優勝し（中国、米国、セルビア、ブラジル、ロシア）、表彰台を目指す。	
	アンダーカテゴリー	男子	U18 アジア選手権	3 位以内	イラン、中国、タイペイに勝利し、世界選手権出場権を獲得する。
			U20 アジア選手権		
			AVC カップ	優勝	
		女子	U17 アジア選手権	3 位以内	中国、タイ、韓国、タイペイに勝利し、世界選手権出場権を獲得する。
U19 アジア選手権					
AVC カップ	優勝	ジュニアチームを主軸に参戦し、優勝を目指す。国際試合経験の有効な場とする。			
ビーチ	男子	アジア競技大会	3 位以内	ブラジル合宿、チームジャパン体制浸透	
	女子		3 位以内	4 月末、選抜日本代表への集中強化	

※ビーチの若年層はナショナルチームを発足し、通年での練習強化、高体連との連携でインドア有望選手のビーチ取り込みを行う。

### 3. 普及

	具体的な施策
競技者人口の拡大	各地の競技者人口実態調査（MRS 登録の精査） 特に、中学校のクラブ存続実態を把握し、その対策を練る。 日小連・中体連・高体連は、2017 年度登録者数の 3%アップを目指す
指導者の育成	日本体育協会の指導者資格カテゴリー変更に伴う対応。上級コーチ・コーチライセンス取得者を各 50 名とする。 外部指導者導入への対応を検討。 「初心者指導者向け」及び「上級（グローバル）指導者向け」テキストの編集計画。
体罰・暴力・ハラスメント撲滅	加盟団体との連携を更に強化して体罰・暴力・ハラスメントに厳しく対処する。各種講習会における教育の実施及び内容の充実。 2020 東京オリンピックに向けて体罰・暴力・ハラスメント撲滅キャンペーンの展開。

### 4. 連携

- ・ 入場料収入増大のために国際大会開催地加盟団体との連携会議等の運営
- ・ MRS 登録促進専任スタッフによる加盟団体との新たな連携
- ・ 評議員改選、定数増員（6 月）による加盟団体からの人材の登用
- ・ 評議員会、理事会の情報交換促進（懇談会等の実施）

### 5. その他

- ・ 2018 女子世界選手権大会、ビーチバレーワールドツアーの運営経費削減目標 0.2 億
- ・ 労働環境の整備→事務局職員の人事評価制度導入/長期契約職員の正職員化
- ・ 新入職員 3 名の早期戦力化→事務局組織の活性化

※第 9 期（2018 年度）事業計画についての詳細は、資料記載の通り。

#### (3) 第 9 期（2018 年度）予算について

冒頭、2018 年度の大幅な赤字予算案となった経緯について説明が行われた。  
続いて、収支予算書（案）の説明がなされ、賛否を諮り承認可決された。

#### 【大幅な赤字予算案となった経緯】

##### 1. 2018 年度予算案

収入 26 億円、支出 33 億円、5.9 億円の実質赤字（表面上の赤字は 7.2 億円—2016 の利益を活用した主に強化に関する特定費用準備資金の使用に伴う支出が 1.3 億円あるため）

## 2. 赤字の主な要因

① 2018 ビーチワールドツアー招致に伴う赤字⇒2.5 億円

② 2018 世界選手権大会招致に伴う赤字⇒6 億円

(6 億円の内訳)

FIVB からの運営助成金廃止	2.5 億円
FIVB からの宿泊費半額補助廃止	1.4 億円
大会会場に関わる経費増	1.0 億円 (東京 2020 体育館不足問題の影響)
その他経費の増加	1.1 億円 FIVB 大会開催基準の上昇 (LED 看板、大型ビジョン、公式エントリー選手数増) 国内移動旅費の高騰

## 3. 従来からの取り組み

期間	ビーチ	世界バレー
2013 年 6 月 ～2015 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2015 の横浜グランドスラム開催と 2016-18 に国際大会 4 回実施の契約締結</li> <li>・2014 より新事業部を立ち上げビーチバレーボールのてこ入れに乗り出す (経費予算 0.7 億円 ⇒ 1.7 億円へ拡大)</li> <li>・2015 よりビーチバレーボール事業本部に移行—経費予算 4.5 億円に (うち 2 億円が国際大会に)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2014-8 月に覚書締結 2010 の大会では、契約金の内 2 億円は運営助成金 (FIVB の支払い肩代わり) として、JVA に支払われた。</li> <li>・2018 大会は FIVB の運営助成金廃止に伴い、「ユニフォームの胸の広告権は JVA に付与」とされたが、JVA から放送局とそれを元にした交渉がされず、次期体制への引継ぎがなされなかった。</li> </ul>
2015 年 6 月 ～2017 年 6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2015 横浜グランドスラム開催 2 億円の赤字</li> <li>・2015 の失敗を受けて解約交渉するが 2 億円を超える違約金のため、国際大会 1 回削減で 2018、2019 の 2 回開催に。</li> <li>・ビーチバレーボール事業本部 2016 年度経費予算を 1.3 億円に圧縮</li> <li>・自治体との交渉により 2018 ワールドツアー誘致に成功 (0.8 億円助成)</li> <li>・協賛金獲得、入場料有料化への施策進まず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊費 50%負担廃止を受けて協賛金獲得に動く (寄付金 2,000 万円の獲得)</li> <li>・運営助成金廃止による経費大幅増の 2018 経営予測が甘く、対策としての放送局への経費支援交渉がなされなかった。</li> </ul>

<p>2017年8月 ～現在</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年末に自治体から開催中止を通告され、キャンセル阻止に動くも実らず</li> <li>・代替開催地探しと新規協賛見込み企業の開拓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催経費支援要請をFIVB会長に2回するも交渉実らず</li> <li>・本件に関する経費支援交渉中</li> </ul>
------------------------	--	---

#### 4. 今後の正味財産の推移予測

現在 ⇒ 15億円

2017年度末（予想）⇒ 15億円（今年度は黒字見込み）

2018年度末（予想）⇒ 8億円の減少

2019年度末（予想）⇒ 5億円の減少

2020年度末（予想）⇒ 9億円の回復

（テストイベントとしてOQTに替わるイベントを企画）

（うち基本財産は2.3億円）

#### 5. 今年度（2018年度）の取り組み⇒2018事業計画「4つのキーワード展開」参照

#### 6. 今後の中期的な取り組み

2019年度はワールドカップ男女、ビーチワールドツアーの新規協賛金、グッズ販売、入場料収入拡大に尽力し赤字半減（1.5億円）を目指す。

2020はオリンピック前のテストイベントの国際親善試合で、収入拡大（3億円）を図り、正味財産拡大を目指す。

一方で、2021以降の国際大会の招致、契約スキームの改善に取り組むために、FIVBやテレビ局との交渉力、商品力強化が今後の鍵

今後は、2024までも見据えた中長期の経営計画、財務計画の策定に尽力し、公益財団法人としての責務を全うしながら、国際大会招致、国内大会の価値向上に取り組んでいく。

#### 【収支予算書（案）の説明】

2017年度から内閣府より認められた3事業区分での予算2期目になる。

収益事業はバレとも、物品販売、肖像使用のみとなり、その他はすべて公益事業となる。

#### ●全体の収支

収入総額は2,618百万円、費用総額は3,346百万円となり728百万円の赤字予算を計上している。

今年度はグラチャン、世界クラブ選手権、AVCビーチ国際大会があったが来年度は4スターのビーチバレーボール国際大会と8年ぶりに女子世界選手権を日本で開催する。今年度との単純な比較はできないが、収入に比べて費用が格段に増加しているのは上述のとおり。なお公益目的事業比率は93%になっている。この数値が50%以上あることが公益財団として求められており、基準をクリアしている。

※第9期（2018年度）の予算書の詳細は資料記載の通り。

#### (4) 組織変更及び役員担務の変更等について

組織変更及び役員担務の変更についての説明があり、賛否を諮ったところ下記の通りになった。

##### 組織変更について

<承認可決>

2018年4月1日付で、マーケティング事業の強化・拡大を目指し、M&M事業本部の機能を見直して「マーケティング戦略事業本部」と改称し、マーケティング戦略事業本部内に「マーケティング戦略推進部」と「マーケティング・コミュニケーション部」を置く。また、業務推進室・企画部は廃止とし、その役割をマーケティング・コミュニケーション部、経理部、総務部にそれぞれ移管する。

※組織変更の詳細に関しては、資料記載の通り。

##### 役員担務の変更等について

役員担務の変更及び重要な使用人の選任について説明を行い、それぞれについて賛否を諮ったところ以下の通り承認可決された。

##### ■担当職務の変更について（2018年4月1日付）

- ・八田茂 （現）代表理事 専務理事  
（新）代表理事 専務理事 兼 事務局長 兼 東京2020大会準備室長

※なお、現業務執行理事 事務局長である林孝彦は2018年3月31日付で退任する。

- ・鳥羽賢二 （現）業務執行理事 ハイパフォーマンス事業本部本部長  
兼 女子強化委員会委員長  
（新）業務執行理事 ハイパフォーマンス事業本部本部長
- ・鍛冶良則 （現）業務執行理事 業務推進室長  
（新）業務執行理事 業務推進室長 兼 総務部長

##### ■重要な使用人の選任について（2018年4月1日付）

- ・灰西克博 （現）M&M事業本部本部長 兼 M&M推進部長  
（新）マーケティング戦略事業本部本部長

## (5) 事務局規程の改定について

事務局規程の改定について、下記の通りに説明があり、賛否を諮り承認可決された。

2018年4月1日付で、マーケティング事業の強化・拡大を目指し、M&M事業本部の機能を見直して「マーケティング戦略事業本部」と改称し、マーケティング戦略事業本部内に「マーケティング戦略推進部」と「マーケティング・コミュニケーション部」を置く。また、業務推進室・企画部は廃止とし、その役割をマーケティング・コミュニケーション部、経理部、総務部にそれぞれ移管する。この組織の改編に伴い、事務局規程の（事務局の組織）、（所管業務）の修正が必要となる。

理事より経理部に事業計画に関わる業務が移管されることに伴い、それに相応しい組織名称に変更すべきではないかとの意見があり、次回理事会までに検討することとなった。

※事務局規程改定の詳細に関しては、資料記載の通り。

## (6) 委員会委員等の選任について

委員会委員等の選任についての説明があり、個別に賛否を諮り下記の通り承認可決された。

### ■女子強化委員会 委員長の選任について（2018年4月1日付）

氏名	役職	生年月日	現職及び役職等
寺廻 太	女子強化委員会委員長 (選任)	1958年1月22日	Vリーグ女子 PFUブルーキャッツ監督

### ■最高情報責任者、MRS委員会 委員長の選任について（2018年4月1日付）

氏名	役職	生年月日	現職及び役職等
八田 茂	最高情報責任者 (CIO) MRS委員会 委員長 (選任)	1956年10月11日	代表理事 専務理事



■コンプライアンス委員会、公認推薦認定委員会委員長の選任について（2018年4月1日付）

氏名	役職	生年月日	現職及び役職等
鍛冶 良則	コンプライアンス委員会 委員長代行 公認推薦認定委員会委員長 (選任)	1955年8月12日	業務執行理事 業務推進室長 コンプライアンス委員会委員

■JVA 東京オリンピック・パラリンピック競技大会準備委員会委員の選任について（2018年3月13日付）

氏名	役職	生年月日	現職及び役職等
田代 英明	JVA 東京オリンピック・ パラリンピック競技大会 準備委員会委員 (選任)	1963年6月20日	一般財団法人神奈川県 バレーボール協会 専務理事

(7) 功労者 I 表彰の決定について

功労者 I 表彰の候補者 3 名についての説明が行われ、3 名の候補者について一括で賛否を諮り承認可決された。

加盟団体宛に功労者 I 表彰（年に 1 度）候補者の推薦依頼をかけたところ、3 名の推薦があった。これを受け、3 月 6 日に表彰委員会を開催し、審議を行った結果、全員表彰基準を満たしており、功労者 I 表彰に相応しいと判断したため、本日の理事会にて承認をお願いしたい。

今回の候補者に該当する功労者 I 表彰（役員関係暦）基準：

「本会若しくは本会に加盟する全国的に組織されたバレーボール競技団体の役員又は本会の委員会委員及び協力社等の立場から、バレーボールの普及・発展に著しい功績のあった者で、原則として当該関係暦が 20 年以上ある者。」

推薦加盟団体	表彰者氏名	生年月日	所属団体役職
大阪府バレーボール協会	中川和雄	1926年11月1日	日本クラブバレーボール 連盟 会長
(一財) 神奈川県 バレーボール協会	白石武彦	1938年3月31日	日本クラブバレーボール 連盟 副会長
(公財) 全国高等学校体育 連盟バレーボール専門部	林義治	1953年12月3日	(公財) 全国高等学校体育 連盟バレーボール専門部 顧問

## (8) 平成 28 年度事業を対象としたスポーツ振興事業助成金実態調査結果に基づく改善方策の提出について

平成 28 年度事業を対象としたスポーツ振興事業助成金実態調査結果に基づく改善方策の提出について説明があり、賛否を諮り承認可決された。

スポーツ振興事業助成金実態調査における指摘事項に関する改善方策を下記の通り取り纏め、独立行政法人日本スポーツ振興センターに提出することについて、理事会にて承認願いたい。

### 調査対象事業：競技力向上事業

- 1 シンボルマーク又はロゴマーク等の表示状況の改善
- 2 関係書類の整理状況の改善

### 調査対象事業：スポーツ振興くじ助成事業

- 1 関係書類の整理状況の改善

※平成 28 年度事業を対象としたスポーツ振興事業助成金実態調査結果に基づく改善方策の詳細に関しては、資料記載の通り。

## 7 報告事項

### (1) 2017 年度第 4 四半期職務執行報告

法令及び理事会運営規程に基づき、2017 年度第 3 四半期の職務執行報告が、嶋岡会長、八田専務理事、及び業務執行理事、事業本部長より行われた。主な報告内容は下記の通りである。

#### 【嶋岡会長】

- ①春高バレー開会式・閉会式挨拶
- ②V リーグ機構関連会議出席
- ③FIVB(スイス)出張
- ④JVA 感謝の夕べ開催
- ⑤ブロック理事長会議出席
- ⑥理事会・評議員会・評議員懇談会開催
- ⑦日本トップリーグ機構常務会議出席

#### 【八田専務理事】

- ①組織委員会大会運営準備局関係者会議出席
- ②B リーグオールスターライブビューイング観戦、富士通関係者打合せ
- ③岩崎学園理事長挨拶、横浜アリーナ関係者打合せ

- ④山本アスリート委員長打合せ
- ⑤職員人事考課制度 導入
- ⑥2018 予算各事業本部検討会議
- ⑦青山学院大学女子バレーボール部インカレ優勝祝賀会出席
- ⑧全国競技委員長研修会出席

**【林業務執行理事／事務局長】**

- ①各種大会・会議・イベント・セミナー、表彰式参加
- ②各協力社、関係先との折衝、関係団体との連携
- ③HP（強化・普及）・ビーチ事業本部関連
- ④JVA 東京 2020 大会準備委員会、公認・推薦認定委員会、表彰委員会出席
- ⑤全国ママさんいそじ大会視察
- ⑥MM 事業本部関連（協賛会社訪問等）
- ⑦V リーグ機構理事会出席
- ⑧2050 年構想、中期計画関連（変更検討）

**【鳥羽業務執行理事／HP 事業本部長】**

- ①V リーグ機構視察／選手選考等
- ②男子・女子監督 JOC へ強化方針説明
- ③山口県協会、岡山市、薩摩川内市来訪対応
- ④男女強化委員会開催
- ⑤ユニバ・女子ジュニア強化合宿視察
- ⑥HP 事業本部予算計画立案、業務委託者契約面談等
- ⑦JOC 第 1 回東京 2020 強化ミーティング参加
- ⑧女子強化委員長人事検討

**【桐原業務執行理事／ビーチバレーボール事業本部長】**

- ①プロモーション戦略会議
- ②ビーチバレージャパン実行委員会
- ③マイナビ表敬訪問
- ④ビーチ若年層強化普及関連
- ⑤U19 日本代表強化合宿視察
- ⑥アジアツアー女子日本代表決定戦大会視察
- ⑦世界大学選手権日本代表選考会実施
- ⑧AVC ビーチバレーボール委員会（タイ）出席

**【鍛冶業務執行理事／業務推進室長】**

- ①JVA 運営会議開催
- ②コンプライアンス委員会開催
- ③評議員・理事会の在り方についての検討会議出席
- ④日本体育協会との会議（体罰・暴力関連）

- ⑤日本体育協会処分審査会陪席
- ⑥JVA 本部長会議開催
- ⑦JVA 東京 2020 大会準備委員会出席

**【小田桐国際事業本部長】**

- ①ビーチバレーボールワールドツアー2018 開催地利用交渉
- ②世界バレー2018 契約書会議出席
- ③世界バレー2018 神戸・浜松、大阪・名古屋・札幌・横浜  
会場インスペクション立ち合い
- ④ネーションズリーグ 2018 放送権関連会議出席
- ⑤ネーションズリーグ 2018 豊田会場下見
- ⑥JVA 東京 2020 準備委員会会議出席
- ⑦ワールドカップ 2019 開催地調整
- ⑧世界バレー入場券会議出席

**【村上国内事業本部長】**

- ①春の高校バレー関係業務
- ②MRS 説明会開催（近畿ブロック）
- ③はつらつママさんバレーボール教室打合せ
- ④黒鷲旗大会選考委員会出席
- ⑤V リーグ機構との国際・国内大会日程調整会議開催
- ⑥全国ブロック理事長会開催
- ⑦全国競技委員長研修会出席
- ⑧全国審判委員長研修会および6人制審判員講習会出席

**【灰西マーケティング&マーチャンダイジング事業本部長】**

- ①スポンサー企業への訪問
- ②公認ウェアの認定希望企業3社との面談
- ③排球堂との打合せ
- ④JVA 感謝の夕べの準備・開催
- ⑤JVA 東京 2020 大会レガシー推進部会議出席
- ⑥M&M 事業本部会開催
- ⑦公認推薦認定委員会開催
- ⑧電通打合せ

## (2) 功労者Ⅱ表彰報告

志水副会長より、功労者Ⅱ表彰について下記の通り報告された。

○第8期（2017年度）第4回功労者Ⅱ表彰者

（3月6日開催された功労者表彰委員会にて表彰決定）

- ・山下兆子 東京都ママさんバレーボール連盟 顧問
- ・河本信正 京都府バレーボール協会 副会長
- ・小山田正敏 岩手県バレーボール協会 副会長
- ・黒田謙二 北海道バレーボール協会 副理事長
- ・大江憲一 北海道バレーボール協会 副理事長
- ・大川良文 徳島県バレーボール協会 顧問
- ・吉村茂之 岐阜県バレーボール協会 参与

以上をもって、議事の全ての審議を終了した為、議長は15：50に開会を宣した。